

異文化と心通わせ

つくば通信

17

村田 佳子



庄内も寒くなってきた
ことを思いました。ついぱりますか?」。英語の発音から韓国人の方だとわ
ました。携帯電話で冬も雪がまだこんな遅い
まで友人と連絡を取るの合つ

てないだろうか…」と、慌てて自己紹介をしました。その女性は、名刺を出しました。

勉強をした。

出来事を思い出しま
強するきっかけにな

プールと学校の往復で忙
の世界のことはよく知り
ませんでした。大学とい

冬も雪がほとんど降らないので、四季があるといつても庄内の地吹雪を経験している私にとって、今ごろは春までの長い秋が始まったといった感覚です。

ご友人と連絡を取り合っていましたが、私はその待ち合わせ場所までは歩く20分以上かかるのと、そして私の車でお送りで、きることも伝えました。するとその女性は「

そんな秋の朝、久しぶりに大学構内のジョギングコースを歩いていたら、40歳代と思われる女性に英語で声をかけられました。運転をしながら「…考えてみた。

も恐縮して申し訳ないと言いましたが、急いででもいるということで私の車で友人の待つ所まで行こうとしたしました。運転

「すみません。研究会でつづきにきました。友人との待ち合わせ場所の〇〇に行きたいのですが、どちら私は起きたまま、化粧もせずに運動する格好で、名刺も着替えただけで、変な人と思われたら困ります」とおっしゃるのです。

世界で使われる「英語」という言葉

出しながらソウルの女子大で植物学を研究しているところを、その口はソウルの研究学会に参加するため会場であるつくば市内の植物園に行く途中、と目的地に着いて車を降りる時、彼女は安心した様子で「ありがとうございました。今日は本当に」と言いました。日本語で母国では英語の先生をしていた方でした。それから私は彼女に日本語を、彼女は私が通い合ったことがうれしく、生活の彩りが増したと感じた瞬間でもありました。

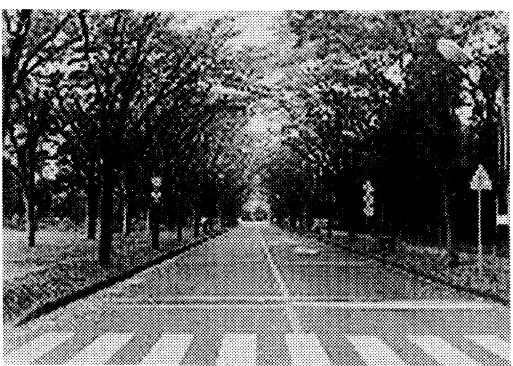
学生時代、学内を自転車で走っている時に赤いコートを着た小柄な外国人女性と正面衝突してしまったのです。幸いその女性もけがはなく、丈夫くわかったのですが、当時、私は英語を話せなかつたため何の言葉もかけられることができず、また彼女も日本語はわからないという状態。連絡先だけ交換していたのでその日の晩、お見舞いにうかがいました。彼女はペルーカからの留学生で母国では初めて彼女と会話をしたときに、「将来話せるようにしゃべることもできない」となぜかイメージになつて外国人のお手伝いをするような仕事をしていました。彼女はペルーだけは持っていました。

そのことにも気がつき、それからは学内のＬＬ教室や図書館に通り、別の学部の授業や再度英語を履修したりと、時間を有効に活用することができました。

う便利な場所にしながら、施設をしつかり活用して施設をしつかり活用してそれからは学内のＬＬ教室や図書館に通り、別の学部の授業や再度英語を履修したりと、時間を使つたり、

学内を自転する便利な場所にならがり、いる時に赤い施設をしっかり活用して、した小柄な外国のないところにも気がつき。それから学内のJ.L.I.教室衝突してし。幸いその室や図書館に通つたり、ではなく、大丈とはなんとなつたが、当話を話せなか別学部の授業や再度英語を履修したりと、時間の話題もかけさず、また彼はわからない連絡先だけしゃべることもできないのに、「将来話せるように、なつて外国人のお手伝いをするような仕事をして、いる」となぜかイメージだけは持っていました。彼女はペルーで母国では、初めて彼女をささいなことでした。大笑いした日は、心が通り合つたことがうれしから私は彼女が彼女は私を、彼女は私が彼女によつたなました。

秋の筑波大キャンパス



限られた留学期間、熱心に勉強していく彼女と、韓国人の大学の先生に朝、お礼を言われた時、「大学私も興味を持ったことは自分なりに一〇〇%やつてみた」と小さくガッツポーズをしたくなりました。

大学構内のジ
ヨギング「一
ス
一)
筑波国際センター・クリ
ニック ハーディネータ
（会員登録 JICA